



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

神社庁各支部支部長就任挨拶	2
平成二十五年度神社庁々務方針	5
神社庁役員等の改選	6
教化委員会の運営方針	8
埼玉県神社氏子総代連合会会長就任挨拶	9
神道政治連盟埼玉県本部長再任挨拶	9
神道青年会会長就任挨拶	10
神道婦人会会長再任挨拶	10
庁務日誌抄	11
第六十二回神宮式年遷宮奉祝記念	12
第三十四回埼玉県神社関係者大会報告	12

目次



第205号

発行 埼玉県神社庁
さいたま市大宮区高鼻町1-407
電話048(643)3542
編集 庁報室
印刷 株式会社アサヒコミュニケーションズ



お白石持行事 内宮川曳 7月26日

神社庁各支部支部長就任挨拶

北足立支部

鈴木邦房



支部長二期目を迎え、益々充実した支部運営を心掛けようと思っております。

支部の役割を改めて

考えてみますと、その大きな目的に「各神社の利益への模索と、神社庁の健全な運営の補助。」という責務があると思っております。そこで一期目に着手したのが、支部内の神社すべてに「由緒書看板の設置」を実践してまいりました。結果は、各神社の総代各位にも大変喜んでいただきました。これがやがて、神社庁が包括するすべての神社に波及し、「埼玉神社庁の誇り」の一つになればと思っております。そして、今期はまた新たな事業に取り組んでまいりたいと考えています。

右の事業等は、すべて「攻めの守り」がコンセプトにあります。めまぐるしく変わる現代において、神社が果たす役割を改めて考えた時、「不易流行」を強く思うのであります。これがいわゆる「攻めの守り」ということで、守るべきものは死守し、変えるべきものは積極的に変えていかねばならないという信念で進んでまいりたいと考えています。

人間支部

梅田久詞



人間支部会員に背中を押され、浅学非才の私が人間支部長に就任をし、数か月が経過した今でも、その重責を

ひしひしと感じています。

さて、今年度の主要な事業としては東京国立博物館での『大神社展』に、神職三十名で拝観をしました。次に、第六十二回伊勢神宮式年遷宮に係る内宮のお白石持行事は、百四十二名が八月二日に奉献を予定しています。また、明年一月下旬から三月中旬にかけて、伊勢神宮での御垣内参拝を二十班・四千五百人を目標とし、氏子総代を中心に案内状を支部管内に配布し、現在募集をしています。

さらに、次世代の育成事業として、支部と支部神道青年会共催で、神社正式参拝研修を開催します。これは単なる物見遊山でなく、ハイキング・意見交換会等有意義な一泊二日の研修旅行です。

以上の様に、支部内各層の方々とコミュニケーションを図りつつ、「今やること」を実践していますが、各位のご指導を仰ぎながら充実した支部になる様に努めてまいります。

比企支部

島野弘克



この春より、前任者の任期満了に伴い比企支部長を仰せつかりました。

素より浅学非才かつ

微力ではございますが、責務を全うしてまいる所存ですので、皆様よりのご厚誼を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、当比企支部は埼玉県の中央部に位置し、神職数は四十名程で、それぞれが管内百九十六社をお預かりしています。

今期中には、管内神職の資質向上を図るために、衣紋研修・祭祀舞研修等の開催を予定しております。

時代とともに神社を取り巻く状況・環境は変わってきましたが、先人より受け継いできた神社を中心とする地域と人とのつながりを、良いかたちで継承してゆくために、管内神職の協力を得て支部長を努めてまいりたいと思っております。

秩父支部

園田 稔



第六十二回神宮式年遷宮の佳節を迎える本年度から三期目に入られた中山高嶺庁長以下の役員体制のうち、今

期の秩父支部長を引き続き拝命するに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

一昨年の三月十一日に東日本一帯を襲いまた大震災で、今更のように低迷する日本社会の根本的な立て直しを迫られるなか、当県神社界も重大な転機を迎えており、懸案の神社庁施設の改築並びに宗教法人化と各支部の再編成など画期的な課題に取り組むことになっており、小職も微力ながらご協力を惜しまぬつもりです。

当支部におきましても、県北山間地帯にあつて散在する集落の深刻な過疎化、少子高齢化のなか氏神鎮守の護持保全にさまざまな課題を抱えておりますが、ここ数年来、支部長直属の神社対策委員会を立ち上げ、心ある若手神職十余名をもつて具体的な神社振興対策に当たっており、まず何よりも地域ごとの氏子総代と神職との交流を深めつつ総代の使命感向上に努めるなど、いささかの手ごたえを実感しているところです。

児玉支部

金 鑽 俊 樹



児玉支部は、九支部の中でも北部に位置し、会員数三十名の小さい支部です。神社数は百十四社です。

支部事業としては、七月二日に、本社本庁等の税務会計などの仕事に携わられている大野公義税理士事務所の野野公義所長をお招きし、神社会計と税務に関して、神社実務研修会を開催しました。

また、支部の総代会の協力を得て、第六十二回神宮式年遷宮記念として、由緒書の看板を、今夏より支部全社に順次設置していく予定です。

昨今神社に対しては、さまざまな問題がたくさんあるかと思えます。一人で悩んでいてもなかなか解決しない事も多いはずですが、支部のつきあいの中で様々な人たちとつながりができます。また、色々な機会があり自分の見聞を広げられる楽しい一面もあります。支部役員だけが参加するのではなく、多くの会員の皆さんに参加していただき、充実した活動を行いたいと思えます。三年間宜しくお願いします。

大里支部

茂 木 治 男



この度、大里支部長を仰せつかりました。もとより浅学非才の身、職務の重大さを考えると身の引き締まる

思いです。本社庁並びに大里支部発展のため、微力ながら全力を尽くしてまいる所存であります。

さて、本年はまもなく第六十二回神宮式年遷宮を迎えます。五年前より国民総奉賛を目指し取り組んだ奉賛活動も大きな成果を収め、いよいよ結実の時です。多くの人々が関心を持つて待ち望む御遷宮、この機運の高まりを絶やすことなく参宮へと繋げていきたいと思えます。更には、地域氏神である各神社へと誘導すべく、教化啓蒙活動を行うべきであると考えます。

諸活動や施策の実施にあたっては関係者一丸となり目的を共有し、共通認識のもと対処することが何よりも重要であると考えます。支部内の「和」を第一に、皆様のご指導ご協力の下、責めを果たして参りたいと思えますので何卒宜しくご支援ご協力をお願い申し上げます。

北埼玉支部

副支部長 河野 健明



北埼玉支部副支部長の河野健明でございます。本来は押田豊支部長が所信を申し上げるところでございます

が、私も去る四月二十三日の役員・支部事務担当者会にて理事・協議員としてご承認頂きましたので、支部を代表して一言ご挨拶申し上げます。

さて、御遷宮奉賛も恙なく進み、この十月にはいよいよ遷御を迎えます。当支部に於きましても目標額を大きく上回るご奉賛を頂きました。しかし、氏子・崇敬者の関心の高さと大麻の増頒布とが、なかなか結びつかないのが現状であります。管内神社で参宮団を予定している所も多数ございます。この機会を逃さず、次期遷宮を見据えての増頒布対策を進めてまいりたいと思っております。

また、時代に即した新しい支部の規約を作成することとなりました。これを機に総代各位と共に支部をより活性化してまいりたいと思っております。
三年間どうぞ宜しくお願い致します。

南埼玉支部

恩田 隼 脩



前期に引き続き支部長を務めさせていただきましたことになりました。南埼玉支部は、平成二十三年度まで、一十

万家庭神宮大麻奉斎運動モデル支部として、身近に出来ることから実践活動をすすめ、宮司・総代理事が中大麻を受けることとし、氏子崇敬者向けにリーフレットを作成して増頒布の推進を図って参りました。指定期間は終了しましたが、今後も引き続き皆様と意見を重ね神宮大麻増頒布に向けて努めて参ります。
八月二十三日には、神宮式年遷宮の記念事業として、お白石持行事に二百三十名が参加することになっております。なお、人数制限があり、参加できなかった方々も多いことから、遷宮後の参宮団の結成を各社に勧奨するようお願いしております。

以上を踏まえながら本年は、地域住民への神社の啓蒙・教化のため、地域の諸活動に神職自らが積極的に参加し、神社に対する意識向上・啓発を図ることを主要事業として位置づけ、活動していきたいと考えております。

今後、支部内の融和を大切に、共有・互助の連携を図りながら運営を進めて参りますので、御支援と御協力をお願い申し上げます。

北葛飾支部

東 秀 幸



今期、支部長を拝命しました。浅学非才の身でございますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

北葛飾支部は、現在三十八名の神職と二百六十三社の神社が登録されています。埼玉県の東側に位置し、南北に細長い地理的特徴もあり、特色ある祭り、信仰を見ることが出来ます。

今期支部内の活動としては、以下の事項に取り組みたいと考えております。

- 一、諸研修参加を奨励し、個々の資質の向上を図る。
- 一、支部地区理事の立案による研修会を毎年開催する。
- 一、神宮大麻の増頒布を図る。
- 一、総代会と連携し、氏子への教化育成を図る。
- 一、神政連推薦候補者への応援に努める。
- 一、神社本庁臨時祭事には、支部内各社へ幣料を奉献する。
- 一、神道青年会並びに神道婦人会会費を助成する。

等々、微力ながら活動してまいりますので、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成二十五年神社庁々務方針

参事 前原利雄

去る三月十一日、定例の埼玉県神社庁協議員会が開催され、平成二十五年の予算が承認可決されるとともに、任期満了に伴う役員改選が行われ、前期に引き続き中山高嶺庁長、竹本佳徳・押田豊両副庁長が再任、新役員（理事・監事）もそれぞれに就任され、中山庁長三期目の新年度がスタートした。ここに前の協議員会の報告を兼ねて今年度の庁務方針について概要を報告する。

新年度予算は、歳入では前年度よりの繰越金を前年比八百万円減と見込み、その分雑収入に於いて運転資金より八百万円を受入れ補い、総額で一億八千八百六十万円とする前年比百万九千円の減額予算となった。この繰越金の大幅減額は前年度繰越金が当初の見込みより減ったことに加え、前期最終年度としての総括的な支出増によるものである。尚、歳出においては向後安定的な予算編成が可能となるよう歳出科目に「次期繰越金」を新設し、期首の運転資金として一千万円を計上した。その他の科目については、前年度の予算執行状況を勘案し、全般的に可能な限りにおいて予算の削減を図った。教化啓蒙費についても百五十万円減額の七百五十万円を計上した。この科目は、主に本県教化活動の中核を担う教化委員会の活動諸費として手当してい

るものであるが、従来の本県内での活動の他に、一都七県神社庁が協力する教化・IT部門委員会などの、様々な活動を展開するための予算も計上している。積立金についても、今年度厳しい予算状況であり、記念事業積立金及び職員退職給与積立金・庁舎積立金をそれぞれ百万円減額した。尚、予決算（収支計算書）については、例年九月に開催の神職総会の際、業務報告とともに報告の予定にてご承知おき願いたい。

平成二十五年度は、前述の通り改選による新役員の下で実施されることから、通常業務の適切な運営及び継続する事業の施策の充実と、その積極的な推進に努めるほか、新規事業については、中山庁長以下新役員のご判断とご意向のもと円滑に実施されるよう、各支部をはじめ関係諸団体とも緊密なる連携を図り鋭意取り組んで参りたい。そのために、必要に応じて補正予算を組むなどして対応していく。

先ず、伊勢神宮式年遷宮については、国民総奉賛の趣旨のもとに、神社関係者のみならず県内の各界各層の方々の奉賛により、県本部の目標（六億三千万円）を大きく超えることが出来た。ご関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、秋には愈々遷御の儀が麗しく斎行される。国家の重儀である遷宮事業の完遂

を奉祝し、神宮・神社との新たな神縁を結ぶべく各地域・各神社での記念事業の実施に努める。神宮大麻の増頒布運動の展開については本宗奉賛委員会を中心に取組み、モデル支部の活動を参考に教化委員会をはじめ協力団体との連携強化を図って参りたい。

また、来る平成二十八年には、神社庁設立七十周年の佳節を迎えることから、中山庁長の基本方針として示された「新庁舎建設」「支部再編」について、それぞれ検討委員会を立上げ、その実現に向けて具体的な方途を取り纏める。その他、とくに斯界をはじめ、本県神社界が抱えている喫緊の問題・事案に対しては、役職員一同迅速に対応するとともに、実効性のある方途を講じて参りたい。

次に、教化活動については、各支部をはじめ教化委員会や研修所講師会、さらには、一都七県教化担当者会なども全面的な協力を得て、各種研修会・お宮と親子の集いの開催、神話カレンダー・教化冊子などの作成等々さらなる内容の充実に向けて参りたい。

その他、次代を担う後継神職の育成や階位取得のための神務実習の充実を図り、現任神職としての教養を深め、品性を陶冶して、社会の師表たりえる人材養成のための生涯研修の実施。雅楽や祭祀舞振興のための指導者の養成と県内各地区での講習会の実施についても講師と協議の上計画を進めて参りたい。

今年度も、各位の尚一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第である。

神社庁役員等の改選

任期満了に伴い役員等の改選がなされ、
各々左記の通り新役員・委員が選任された。

県総代会役員

- 会長 久伊豆神社総代 大野 光政
- 副会長 氷川神社総代 橋本 昭司
- 理事 奈良神社総代 小林 熊二
- 八咫神社総代 帯津永太郎
- 秩父神社総代 宮前 洋一
- 唐鈴神社総代 亀田 本二
- 八幡社総代 加藤 忠迪
- 監事 箭弓稲荷神社総代 野口 莊二
- 香取神社総代 鈴木 光一
- 秩父神社総代 井上 久
- 三峯神社宮司 中山 高嶺
- 川口神社宮司 竹本 佳徳
- 八幡神社宮司 押田 豊
- 理事 川口神社宮司 押田 豊
- 顧問 秩父神社総代 三峯神社宮司 中山 高嶺
- 理事 川口神社宮司 竹本 佳徳
- 八幡神社宮司 押田 豊

神道政治連盟中央委員

- 八幡神社宮司 押田 豊
- 寶登山神社欄宜 曾根原正宏
- 氷川神社宮司 鈴木 邦房
- 神社庁参事 前原 利雄

神社庁役員

- 庁長 三峯神社宮司 中山 高嶺
- 副庁長 川口神社宮司 竹本 佳徳
- 理事(指名) 氷川神社宮司 東角井晴臣
- 同(北足立) 氷川神社宮司 鈴木 邦房
- 同(入間) 梅宮神社宮司 梅田 久詞
- 同(比企) 八坂神社宮司 島野 弘克
- 同(秩父) 秩父神社宮司 蘭田 稔
- 同(児玉) 金鑽神社宮司 金鑽 俊樹
- 同(大里) 古宮神社欄宜 茂木 治男
- 同(北埼玉) 玉敷神社欄宜 河野 健明
- 同(南埼玉) 稲荷神社宮司 恩田 聿脩
- 同(北葛飾) 幸宮神社宮司 東 秀幸
- 同(教化委員長) 高麗神社宮司 高麗 文康
- 同(主任講師) 寶登山神社宮司 中山 高明
- 監事 天神社宮司 金子 元
- 同 箭弓稲荷神社宮司 澤田 昌生

全国総代会代議員

- 久伊豆神社総代 大野 光政
- 奈良神社総代 小林 熊二

神道政治連盟埼玉県本部

- 本部長 八幡神社宮司 押田 豊
- 副本部長 寶登山神社欄宜 曾根原正宏
- 同 氷川神社宮司 真取 正典
- 同 久伊豆神社総代 大野 光政
- 幹事長 氷川神社宮司 鈴木 邦房
- 副幹事長 神明社宮司 林 伊佐雄
- 綱紀委員長 箭弓稲荷神社総代 野口 莊二
- 監査委員長 幸宮神社宮司 東 秀幸
- 青年隊長 氷川神社欄宜 嶋田久仁彦

神社庁協議員 (◎ 議長、○ 副議長)

- 北足立 氷川神社宮司 鈴木 邦房
- 氷川神社権祿宜 水川神社欄宜 馬場 直也
- 氷川神社欄宜 調神社宮司 大澤 佳広
- 秋葉神社宮司 宮本 和彦
- 氷川欽神社宮司 橋本 邦臣
- 宮戸神社宮司 ◎高橋 千里
- 氷川神社欄宜 嶋田久仁彦
- 氷川社宮司 ○橋本 昭司
- 入間 梅宮神社宮司 梅田 久詞
- 高麗神社宮司 高麗 文康
- 氷川神社宮司 加治 茂幸
- 熊野神社宮司 澤田 利光
- 氷川神社宮司 白鬚神社宮司 滝島 和臣
- 富士浅間神社 宮本 孝雄
- 氷川神社宮司 武本宣比古
- 八咫神社総代 山田 禎久
- 比企 帶津永太郎
- 八坂神社宮司 島野 弘克
- 箭弓稲荷神社宮司 澤田 昌生

本庁評議員

- 三峯神社宮司 中山 高嶺
- 川口神社宮司 竹本 佳徳
- 氷川神社宮司 東角井晴臣
- 久伊豆神社総代 大野 光政

教化委員会の運営方針

教化委員長 高麗 文康



前期に引き続き、教化委員長を仰せつかりました。至らぬ者ですが、職責を全うできるような努力を致しますので、皆様には、何卒ご協力をお願い申し上げます。

さて、今期は活動テーマを「氏神産土神信仰と家庭祭祀の教化」生きる喜びのために」と致しました。

事業部（山田禎久副委員長）においては、「社頭における教化活動を後方から支援する活動」と「教化委員が前線に出て行う教化活動」という二つの柱をもって事業に取り組みます。

研修部（馬場裕彦副委員長）においては、教化活動に必要な資質の向上の為に、教化研修会・実務研修会・教養研修会を主催開催致します。

ホームページ専門委員会（中山真樹主幹）は、神社庁ホームページ「埼玉県の神社」の運営と更新を主な役目としています。この他、前期から掲載を始めている「さいたま神さまつづ」も引き続き企画し、内容を充実してまいります。

事業部の活動

家庭祭祀普及事業・神話啓発事業・次世代育成事業・総代教化事業を掲げました。

家庭祭祀普及事業は、前期で終了した「鳥居付おふだ立てプレゼントキャンペーン」の成果と、いわゆる未来の神棚「いのり301」「いのり501」の頒布活動を通じ、家庭祭祀の普及に努め、さらに氏神産土神信仰を強く意識し、地域のお宮への信仰と家庭祭祀の結びつきを強化してまいります。

神話啓発事業は、毎年制作している「神話カレンダー」と、前期制作の読み聞かせの「スメ」リーフレットを活用し、お父さん、お母さんによる神話の読み聞かせの普及を進めてまいります。

次世代育成事業は、前期に開催した、「神主さんと神社へ行こう」ツアーと、昨年武蔵一宮水川神社や高麗神社で開催した教化事業を引き継ぐものです。近年、外部団体から神社に関わる企画が持ち込まれることが多く、教化の場として活用できるものには積極的に参加してゆきたいと考えております。更に、取り組む事業の実を上げるためにも、総合的な教化事業を企画実践したいと思えます。

総代教化事業については、前期に行った、祭儀研究部の取り組みを継続し、総代研修会

の中で、「総代への作法指導」を実施します。また、神社実務部が取り組んだ「境内の樹木点検」を氏子・総代にも参加し易いかたちに内容の再検討を行い、活動してまいります。

研修部の活動

教化研修会については、神社の地域性・社会性・公共性を強く意識した教化活動の紹介とその実践方法に関する研修会を開催します。本年は、九月九日～十日に三峯神社興雲閣を会場に開催することが決定しております。各支部を通じて神職諸氏に通知される予定ですので、多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

実務研修会については、「地域とのつながりを大切にする神社運営」の一助となる研修会の実施を今期中二回程度考えております。

教養研修会については、「神葬祭」をテーマに、今期中一回の実施を考えております。「神葬祭」については、これまでも教化委員会で何度か取り上げられてまいりましたが、こうした先輩方の実績も踏まえて開催して行きたいと考えております。

埼玉県神社氏子総代連合会会長就任挨拶

大野 光 政



この度、御縁により会長に就任し、身の引き締まる思いです。橋本昭司副会長、小林熊二副会長と共に、その任を務めさせて頂きますので、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、井上久前会長には、九年間、大役を果たされ、中山高嶺庁長と共に神宮大麻増頒布・総代研修会・神宮式年遷宮募財目標比百三十三パーセント以上、八億四千万円を成し遂げられ、本当にご苦労様でした。

これまでのご活躍に心より敬意を表します。さて、本年は、神宮式年遷宮遷御の儀が、内宮が十月二日、外宮が五日に浄闇の中、厳肅裡に斎行されます。更に、六十年に一度の出雲大社の大遷宮が五月に行われ、記念すべき年であります。

政府では、去る四月二十八日、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、主権回復の式典が行われ、昭和二十七年サンフランシスコ講和条約発効から六十一年を迎えました。戦後復興の歴史を振り返ると共に、国際社会の平和と繁栄に貢献していく決意を表明、未来への希望と決意を新たにしました。現憲法は、主権の無い時のものであり、決して自主憲法ではありません。憲法前文には、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」とあります。李承晩ラインなるものを一方的に設定、竹島を不法占拠している韓国、石油が埋蔵されていると知れば尖閣諸島は自分の領土だという中国、何をもちて外国の公正と信義を信じるというのか。諸外国では、アメリカカ十八回、フランス二十七回、ドイツ五十九回憲法を改正している。集団的自衛権は持っていないが、行使できないという意味不明な解釈、これは自主憲法ではないからであります。宮家創設問題では、百二十五代に亘る男系による皇位継承こそ、世界に誇るべき制度であり、日本文化・伝統の礎であります。今後、本来の日本の良さを取り戻すために、私たちは何が出来るかを考えていきたいと思っております。

遷宮を機に、神宮大麻の増頒布、英霊顕彰、主権と国益、領土問題、青少年育成、新庁舎建設や支部再編等につき、中山庁長と共に関係各位のご協力を賜りながら、取り組んでまいりたいと存じますので、ご支援ご協力を賜りたく、ご挨拶と致します。

神道政治連盟埼玉県本部長再任挨拶

押田 豊



前期に引き続き、埼玉県本部長を拝命致しました。変わらぬご指導を宜しくお願い申し上げます。大東亜戦争後、占領軍政策のもとで日本文化（特に精神性）が崩され、日本人としての誇りや、祖先から長い月日を重ねて伝えられてきた大切な考え方が失われ、混乱した時代が続きました。昭和四十四年十一月、神道政治連盟が発足しました。以後、「神道精神を国政の基礎に」をスローガンに、皇室尊厳護持運動を始め、靖国問題、教育正常化、憲法改正、領土問題、拉致問題等々、「正しい日本の形」を取り戻すために、関係各位のご支援をいただきながら諸活動を展開して参りました。

民主党主導による「女性宮家」創設への動きの中、万世一系の伝統護持のために、神政連はその危険性を国民に警鐘を鳴らす活動を展開してまいりました。現在沈静化していますが、まだまだ予断を許さない状況にあります。国の皇統を堅持すべく、将来のために多くの英知を集めて、今望ましい形を作り上げるべき時であると思っております。

また、領土・領海に関わる近隣の国々の言動・行動は目に余るものがあります。先人たちが命を懸けて守ってきた大切な日本の国土を、私たちは次世代にしっかりと渡す責任があり、そのためにも「憲法改正」による国防論議は喫緊の課題です。

多くの課題が山積する中、昨年の衆議院議員選挙で自民党が国民の信任を得、安倍晋三内閣が発足しました。安倍氏は、神道連国会議員懇談会の会長であり、日本の形を整えるべく政治活動を展開されております。今夏の参議院議員選挙においても、神政連が推薦した有村治子氏が、多くの皆様方のご支援をいただき無事当選を果たしました。

神政連が目指す「国柄」を、国政において着実に推進していただくよう、これからも支援活動を展開して行きたいと存じております。今後も「一時局対策研修会」始め、諸活動へのご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

神道青年会会長就任挨拶

嶋田 久仁彦



この度、中山真樹前会長の後任として埼玉県神道青年会第二十三代会長を拝命致しました。創立六十周年という節目の年を迎える本年より二年間、会務をお預かりする事を大変光栄に感じると共に、その責任の重さを痛感しております。

会員の皆様方のご理解とご協力をいただきながら、会の発展の為に精一杯務めてまいります。どうぞ宜しくお願い致します。また、戦後間もない頃に本会は設立され、今日まで並々ならぬ熱い思いで多くの活動を展開してまいりました。会の歴史を築き上げてこられた先輩諸兄の御努力に対しまして、謹んで感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

現在当会には約百五十名の会員がおり、役員として副会長三名、総務局長、理事二十六名の方に就任いただきました。事業企画部・研修部・事業発信部の三部が中心となり、会の活動を進めてまいります。また今期より新たに時局対策室を設置し、今秋に遷御を迎える第六十二回式年遷宮の啓発活動、参議院議員選挙へ向けて神道政治連盟への協力、東日本大震災復興支援活動の継続等、時局に対する事業も展開予定でございます。

私は二十四歳の頃から会の活動に参加するようになり、歴代七名の会長の下で多くの事を学びました。そのような活動を通して得たものは、素晴らしい仲間です。当会は、自己研鑽の場であると同時に、同志との出会いの場でもあると考えております。

本年は通常事業に加え、御神田行事や慰霊行事を中心とした周年事業がございます。また、来年は、当県が神青協一都七県協議会総会の主管県でもございます。何れも会員の御協力なくしては成功致しません。会員の皆様には多くのご参加をお願い申し上げますと同時に、会の活動で得た成果を社務に活かし、斯界発展の為にご尽力賜りたく存じます。

最後に、県内各社のご繁栄をお祈り申し上げ、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

神道婦人会会長再任挨拶

竹本 多恵子



本年は、出雲大社「平成の大遷宮」であります本殿遷座祭が、五月に厳粛に斎行されました。

また、神宮におかれましても、数年に互り諸祭が斎行され、第六十二回式年遷宮を十月に迎えられること、誠に慶賀に存じ上げます。日頃より当会の諸事業に対しまして、神社庁をはじめ皆様のご支援とご協力を賜り、心より篤く御礼申し上げます。

今期、二期目の会長の席をお預かりする事になりました。平成二十二年の就任当初、創立三十五周年の記念事業として、折しも奈良県で行われていた「平城遷都千三百年祭」の平城宮跡視察研修を行い、古の国の気概に触れて参りました。そして翌年は、千年に一度の大震災により、震災に対する研修を身近な処から取り組みました。

今年度は、七月三十日に埼玉会館において「防災対策研修会」を開催し、災害直後、被災者の支援に当たられた福島県南相馬市男山八幡神社の西道典宮司に「災害時、神社は何ができるのか」と題して講演をしていただきました。

また、教育勅語に関して、研修を重ねています。近年、家庭や学級の崩壊、幼児虐待などの社会問題に対して、やはり、教育が重要であると考えられます。そこでよく耳にするのが教育勅語ですが、現代において内容の把握までには至りがないので研修を行い、日本人の教育の基本であるばかりでなく、人類共通の教えでもあることが分かりました。今後も課題として取り組んでいきたいと思っております。

併せて、古事記についての研修なども致しながら、会員相互の親睦を図りつつ、微力ではありますが、一歩一歩進めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

第六十二回神宮式年遷宮奉祝記念 第三十四回埼玉県神社関係者大会報告

大澤 孝



去る六月二十日、秩父支部の当番により、「第六十二回神宮式年遷宮奉祝記念・第三十四回埼玉県神社関係者大会」が、秩父市の秩父ミュージアムパーク音楽堂を会場に開催されました。

当日は、生憎の雨天となりましたが、県下より七百名に及ぶ神職・総代の参加を得て、盛大に執り行われました。

新任の宮前洋一秩父郡市神社氏子総代会長による開会の辞に始まり、神宮並びに皇居遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和を行い、中山高嶺庁長による式辞、大野光政埼玉県神社氏子総代連合会長の挨拶と続き、

次いでご来賓としてお招きした、北白川道久神社本庁代理理事草場昭司長老、鷹司尚武神宮大宮司代理孫福弘明参事、長曾我部延昭神道政治連盟会長、更には有村治子参議院議員、古川俊治参議院議員、久喜邦康秩父市長よりご祝辞を頂戴致しました。続いて、神社庁規程表彰及び総代会恒例表彰が行われ、神職十三名・総代等関係者三十一名の計四十四名が永年の功績により表彰の栄に浴さ



れ、被表彰者を代表して、秩父支部から今井奎吾稻荷神社責任役員が、今回の表彰を糧に今後も更に神社のご神徳の発揚・護持運営に努力致す旨の謝辞を述べられました。

次いで、秩父支部の曾根原正宏寶登山神社禰宜により、大会宣言（案）が朗読され、原案通り決議されました。

小休止を挟み、広井良典千葉大学法経学部総合政策学科教授による「鎮守の森とコミュニティづくり」と題した講演が行われ、神社の役割の重要性が改めて強調されました。

その後、次年度当番の亀田本二児玉郡市神社氏子崇敬者総代会会長が挨拶され、藪田稔秩父支部長の先導により聖寿万歳の三唱と続き、最後に橋本昭司埼玉県神社氏子総代連合会副会長が閉会の辞を述べられ、大会の幕を降ろしました。